

〈メモ〉工場見学は園児や小学生など団体が対象。希望日の2週間前までに申し込みを。多数の場合は日時を調整して対応します。問い合わせは信号電材管理部（角さん）、☎0944(56)8282。



九州で唯一の信号機メーカー「信号電材」

●「おおむた『大蛇山』まつり」にはSHINGO-CHANも参加

## 全国シェア3割を誇る信号機メーカー 「信号電材」 (大牟田市)

# わが町

# 発見隊

私たちの生活に欠かせない信号機。大牟田市には全国でも数少ない信号機を製造する会社があります。九州では1社の信号のメーカーが、創業40周年を迎えた「信号電材」(同市新港町)です。大牟田市を活気づける企業として注目され、主に車両用、歩行者用の信号灯器、信号専用鋼管柱、端子箱など道路交通安全設備機器を製造販売。全国シェアは3割を誇ります。

「小さくても世界に通用する会社づくりがポリシー。海外市場をさらに拡大したい」と技術部部长補佐の大城哲さん。現在はマレーシアやモンゴル、タイ、台湾、カンボジアなど主にアジア諸国に輸出しています。

創立当初は信号機の柱と箱だけの製造でしたが、運転者が見やすい「西日対策信号灯

## お山まつり 信号機で装飾した山車で参加



工場見学の児童たちに信号機を説明する角さん(左奥)

器」の開発に成果を挙げた1992年からメーカーとして認められるようになりました。需要が高まる発光ダイオード(LED)の開発に力を注ぎ、昨年はLED個数を192個から108個に減らし、消費電力を23%カットした画期的な「新型LED10くん」が登場し、祭り当日は、8タイプを開発。「反射光を抑え、朝日と西日が当たっても確実に視認できます」と大城さん。

工場見学も受け付けています。所要時間は約1時間で、

地域貢献をしようと、同社は毎年「おおむた『大蛇山』まつり」の二万人総躍りに参加し、社員約100人が信号機で装飾した山車を引きまわす。2008年から信号機のキャラクター「SHINGO-CHAN(しんごちゃん)」が登場し、祭り当日は、着ぐるみのSHINGO-CHANが、子どもたちの人気を集めています。09年は同まつりで「目立った受賞」を受賞。今年も新入社員が中に入り、街を練り歩きます。

展示場で信号機の仕組みの説明を聞いた後、工場で塗装、組み立て、出荷までの工程を巡ります。

「信号機の色は設置される場所によって異なるのを知っていますか。一般的にグレーや茶系が多いですが、観光地などの美観地区では景観に合った色を使います。注意して見ていると面白いですよ。旅先などで、観察してみてください」と案内する管理部総務チームリーダーの角耕平さん。